

令和4年度 第2回「北九州市教育支援委員会」会議録（要旨）

1. 日時 令和5年2月10日（木）15時00分～16時10分
2. 形式 WEBによるオンライン形式
3. 出席者 [北九州市教育支援委員] 大平壇委員（会長） 他15名
（欠席：山口委員、安松委員、向野委員、倉光委員）
[事務局] 学校教育部長 高橋英樹
特別支援教育相談センター所長 北野里香 他9名

4. 議事次第

- (1) 令和4年度 教育支援委員会事業報告
- (2) 令和4年度 教育支援委員会の答申に基づく就学相談の経過
- (3) 令和3年度に就学相談に係る答申とは異なり総合的判断を行って就学措置した児童生徒の状況調査
- (4) 令和5年度 教育支援委員会事業計画（案）
- (5) 令和4年度 通級による指導の相談会申込者内訳
- (6) 令和5年度 通級による指導の指導体制について
- (7) その他

令和3年度就学相談の結果、通常の学級であると判断された児童生徒の状況調査

5. 議事（要旨）

- (1) 令和4年度 教育支援委員会事業報告
（事務局）本年度もおおむね事業計画通りに実施できた。定期就学相談会は全4回の開催となり、計画より1回減らすことができた。夏期就学相談会は、今年度も事務局で行ったが、来年度は形態を検討している。
- (2) 令和4年度 教育支援委員会の答申に基づく就学相談の経過
（事務局）申込件数が昨年度に比べ約180件増加し、現時点で約90%終了している。電子申請の申し込みは昨年度より10%上昇し、全申込数の53%であった。就学先結果として、特別支援学級（自閉症・情緒障害）と、通常の学級が大きく増加した。
（委員）不登校で、就学相談にも行きたがらない子どもがたくさんいると思うが、その子たちへのアプローチはどうしているか。
（事務局）学校において対応を進めている。教育委員会としては、今年度から不登校支援センターを立ち上げ、100名近くの児童生徒がオンライン授業に参加している。

(事務局) 不登校の実態は多岐にわたっていて、1000人を超えている。スクールソーシャルワーカーやカウンセラーとも連携しているが、就学相談の対象となる可能性がある子どもがいることを学校としても把握している。

(事務局) 就学相談の申し込みの中に不登校が原因の子どももいる。関係性を探っていきたい。

(委員) 療育センターや児童相談所とは連携しているか。

(事務局) 強化しているところである。

(委員) 重度の医ケア児の保護者が、訪問教育のみの選択肢しかないように思う。情報提供できる場が必要なのでは。

(事務局) 学校に来ることが身体的な負担になるケースがある。特別支援学校ではスクーリングという制度があり学校で学ぶ機会も保証できる。家庭や医療機関に情報提供することはできる。

(3) 令和3年度に就学相談に係る答申とは異なり総合的判断を行って就学措置した児童生徒の状況調査

(事務局) 対象児童生徒32名が在籍する全ての学校へ訪問し、状況調査を実施した。また、19名が今年度も就学相談を申し込み、6名が答申通りの就学先へ合意した。

(4) 令和5年度 教育支援委員会事業計画(案)

(事務局) 夏期就学相談会を、新しく管理職になった方への研修も含めて行い方を検討している。

(5) 令和4年度 通級による指導の相談会申込者内訳

(事務局) 申込件数が昨年度に比べ約154件増加した。その理由として、中学校における全区巡回指導が開始されることが考えられる。

(6) 令和4年度 通級による指導の指導体制について

(事務局) 小学校では、担当者が増員され通級担当者が増える。中学校では来年度からすべての学校で巡回型の特別支援教室が開始される。

(7) その他

令和3年度就学相談の結果、通常の学級であると判断された児童生徒の状況について

(事務局) 学習面では当該学年の学習の理解に難しさがあるということ、行動面では対人関係についても適応がよい傾向にあることがうかがえた。本年度、特別支援教育相談センターの相談事業につながっているケースも多いので、引き続き丁寧な相談に努めていく。